

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室4号館			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験と専門知識を備えた訪問支援員が在籍しており、こどもの特性や施設のニーズに応じて柔軟かつ的確な支援を提供している。訪問支援員は実践的なアプローチを活かし、訪問先施設や保護者から信頼を得ており、その支援内容が高く評価されている。	支援の質を向上させるため、定期的な研修を実施し、常に知識や技術の習得に努めている。また、支援員間でのケーススタディや成功事例の共有を通じて、チーム全体のスキル向上を図っている。	保護者や施設職員からのフィードバックを丁寧に読み解き、それを自己改善や次の支援計画に反映させることで、常に支援の質を高める努力を行っている。
2	訪問支援員は、現場での対応において実績を積み重ねており、それが訪問先施設や保護者から信頼を得ている。こどもの特性やニーズを丁寧に理解し、具体的な支援内容を提供する姿勢が評価されており、これらを基に、支援内容の質を維持しつつ改善に取り組むスタイルが定着している。	施設職員や保護者とのコミュニケーションを密に行い、支援内容について共通理解を持つことで、一貫性のある支援が提供できるよう努めている。	支援の成果を利用者や訪問先と共有し、その意見をもとにサービスの質をさらに向上させるよう努めている。訪問先との円滑な連携を図ることで、利用者の安心感と満足度を高めている。
3	チーム全体での情報共有や協働を重視し、支援員一人ひとりの知識や経験を活かしつつ、事業所全体としての支援力を高めている。	こども一人ひとりの状況やニーズを丁寧に分析し、個性を重視した支援を常に心掛けている。	訪問先施設や保護者からの要望を支援計画に迅速に反映させる仕組みを強化し、現場での具体的なニーズに応じた柔軟で効果的な支援を提供できる体制を整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援員の経験やスキルに幅があり、その結果として支援内容や対応の質にばらつきが生じる場合がある。	支援員が個別ケースに柔軟に対応するための経験や具体的なノウハウが不足しているため、標準的な対応から逸脱する状況での支援が難しくなることがある。	チーム内で気軽に相談や意見交換ができる環境を整える。これにより、経験不足による不安を軽減し、支援方法や判断の幅を広げるよう工夫していく。
2	訪問先の施設ごとに異なるニーズやスケジュールに対応する必要があるため、調整業務が複雑になりやすい。この負荷が、支援の計画や実施のスムーズさに影響を与える場合がある。	複数の訪問先が重なる場合、施設や支援員のスケジュールを効率的に調整することが困難となり、予定変更や調整業務が支援活動全体の負担を増やす要因となっている。	事前の情報共有を徹底し、訪問当日にスムーズな支援が行える体制を整える。
3	保護者との連携が不足していることにより、支援内容の理解や改善に必要な意見や感想が十分に得られない場合がある。その結果、支援計画やサービスの質が、保護者の期待に十分に応えられないおそれがあり、さらなる改善が求められる。	保護者は日々忙しく、施設とのやり取りに時間を割くことが難しい場合がある。そのため、支援の内容や方針について、十分に話し合う機会が持てず、事業所としても保護者の思いや要望を細かく把握することが難しい場面がある。	保護者が参加しやすい形で、支援に関する話し合いや情報共有の場を確実に設ける。普段の会話や交流を通じて支援の方向性を確認し、保護者の負担を軽減しながらニーズに応じた対応を進める。支援員が保護者の声を丁寧に受け止めることで、信頼関係を強化し、支援の質を向上させる環境を整える。